

#### 四 村落生活におけるネットワークと集団

##### — 近江湖北村落にみるツキアイの事例分析 —

三重大学 秋津元輝

— はじめに

近江の湖北地方では日常のツキアイをトナリシンルイやナコウドシンルイなど××シンルイという名で制度化している村落がある。これらの村落ではシンルイに血縁だけではなくトナリであるとかシンルイのシンルイであるとかの関係をも含めているところに特徴がある。シンルイは個々の家によって範囲が異なるので集団ではなくネットワークを形成している。ツキアイの観点からすればこうした村落はネットワークの集積体と見ることができよう。

これまで比較的対等でフラットな村落構造を持つといわれてきた近畿村落の特質を、ツキアイの制度化を分析視角にしつつネットワークの集積体という側面から考えてみることに本報告の主な目的である。この視点は当然のことながら、今日大きく変動している村落という集団の生態と個々の家の関係を分析する視点を考察することにつながる。

そこで隣接諸分野をも含めてツキアイの概念を検討しておくこと、まず日本におけるツキアイが義理関係をともなうことが広く指摘されるとともに、民俗学者の福田アジオ氏は、義理関係を「つきあひ」（対等関係）、「つとめる」（帰属関係）、「つくす」（上下関係）の三つに分類し、明確にツキアイの対等的性格を示している（福田「村づきあひと約束」、野口・福田『約束』弘文堂、一九七七年）。

さらに、ツキアイという視角の有効性は、対等性という近畿村落の特質にもとづくだけでなく、たとえば近年あるいは近代における

近畿同族の「親類化」、あるいは相互援助的側面の表面化という傾向の中でも確認されるだろう。

村落生活におけるツキアイの具体的内容は、訪問、贈答、労働協力、手伝いなどだが、これらを相互に担うべきツキアイの範囲は平常より親念されている。従来ツキアイは、その「基礎」となる結合契機（親族関係、近隣関係など）や、機能的要請の面からおもに論じられてきたが、村落社会のような定住社会では、ツキアイの相手を村落成員の中に求めさせる力が作用し、その結果、ツキアイは契機と機能とが折り合った独自の社会関係をもつと考えられる。

ツキアイは親族関係を含むが、親族関係は一般に村落外にひろがるので、視野的にみたツキアイは村落内で閉じていない。こうした形態をとることから、ツキアイと村落との関連を探るために、次の二点を具体的な分析課題とした。

個別のツキアイの単位におけるツキアイ全体と村落内のツキアイ（シンルイ）との関連

ネットワークとしてのシンルイと、集団としての村落および近畿村落に特徴的な村落内集団（事例では宮座集団）との関連

この二点を、結合契機と機能に着目しながら検討し、近畿村落の特質について考察する。

##### 二 調査村落の概況とツキアイの制度

調査村落は滋賀県東浅井郡びわ町難波で、戸数は七二戸ある。先述のように、シンルイの特徴はいわゆる親類関係と違って血縁、姻戚関係以外の結合契機を含むところにある。それらの契機を分類すると、「a系譜、同姓関係」、「b血縁、姻戚関係」、「c仲人関係」、

「d近隣関係」、「e」を通じた「関係」、「fその他（寺檀関係、チカツキ、家シンルイ）」に分けられる。また関係の強さによる分類としては「オモシンルイ」か否かがある。

### 三 P家にみるツキアイとシンルイ

ここでは、難波内の一戸をとりあげ、葬儀、婚姻、出生、病気における協力と贈答の範囲・内容、およびその中におけるシンルイの位置を考察する。そこから、個別の家にとってのツキアイが、村落全体に関わるツキアイとしての「むらごと」と個々の家の私的なツキアイとしての「いえごと」に分けられ、シンルイがとくに「むらごと」の部分に深く関わることを、あるいは次第にその部分に限定されつつあることを示す。

### 四 シンルイと村落

ここでは全村落的データを使い、①結合契機と機能との折り合い、②階層、③宮座集団を媒介としながら、シンルイと村落との関係を検討する。その結果、①からは、シンルイの結合契機の柔軟な運用、とくにトナリ関係の拡張が指摘できる。②からは、シンルイ数に階層が反映されること、③からは、宮座集団がシンルイのネットワーク的広がり規制することが示される。

### 五 まとめ

村落という集団は個別の家のツキアイに対して、「むらごと」的ツキアイの部分の形成という形で影響を及ぼす。また、近年の傾向として「むらごと」的部分の分離・明確化が指摘できる。

そうした「むらごと」的ツキアイを背景として制度化されたシンルイは、村落生活の枠を前提とする結合契機と機能との折り合いに影響されるが、近年ではとくに地縁的契機の強まりがみられる。また、シンルイ数と階層が関連することから、二者関係としては対等であるツキアイ関係が、村落全体でみればセットとして差異化されるといえる。ここから、こうした村落の構造を考える場合、個と村落との関係が重要であることがわかる。さらに、ツキアイのネットワークに対する宮座集団の規定性も指摘され、あらためて村落構造と宮座との関連の重要性が確認される。